

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100384		
法人名	医療法人城南会		
事業所名	三原あけぼのホーム		
所在地	沖縄県那覇市三原1丁目2番6号 2階		
自己評価作成日	平成25年12月17日	評価結果市町村受理日	平成26年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JiyosyoCd=4790100384-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成26年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三原あけぼのホームは、城南会の理念と当事業所の理念のもと、家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりが生きがいのある明るい生活が送れるよう支援しています。日中は、デイケアを活用しながら、利用者に身体面・精神面の変化が見られた場合、医師(主治医)・看護師に速やかに報告し対応していただき、その後の指示等を相談しながら対応するように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅と商業施設等が軒を連ねる通りに面した法人内建物の2階に開設して3年目を迎えている。母体の医療法人がかりつけ医となり、利用者の定期的な受診や健康管理、認知症の進行を緩める為の認知症デイの利用、また、利用者の重度化や終末期に対する指針を明示し、医療連携の体制で取り組んでいる。利用者の居室は、自宅同様に本人のペースで無理なく過ごされるようにしたいと家族に協力を仰ぎ、利用者一人ひとりの特徴が表出された環境となっている。管理者や職員は、開設3年目を迎えての課題等を自覚しており、今後の取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を原則とした、利用者への対応やケアの方法に問題がないか考え、ミーティングで再確認しながら、実践していけるよう努めています。	理念は、利用者の尊厳や地域との交流・活動等の5項目で構成され、利用者の人権・尊厳と、自立等への支援に取り組むとしている。事業所内に掲示し共有され、月2回のミーティングで利用者のケアに関連付けて振返ることで実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは、なかなか思うように進展できていません。	事業所は、法人の他事業所と同一の建物の2階に開設され、利用者は散歩や近くの店舗に買い物に出かけたりしている。事業所は地域住民との交流を課題として、地域の行事等への参加や協力等の関わりを持ちたいとしているが、具体的な取り組みには至っていない。	地域交流や地域活動への参加は理念にも位置づけられており、実践課題として捉えて取り組むことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所では、直接的な勉強会は行ってはいないが、法人全体として認知症の講座等を実施しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者に、利用者の状況や活動等を報告し意見交換しながら、サービス向上に努めています。しかし、ご家族や地域代表者の参加は、現状思うようにいっていません。	運営推進会議は奇数月に設定し、事業所の運営や活動状況、ヒヤリ・ハット、外部評価等を報告している。行政代表は毎回参加し、利用者は1回参加しているが、家族や地域代表の参加が確認できなかった。議事録は各委員の意見交換が読み取れない記録になっている。	会議開催月によっては委員2人のみの場合もある。運営推進会議で検討したことを事業所運営等に活かす上でも、構成員に会議出席を促したり、委員を選出する等、今後の取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者から、法的手続きや施設運営に関する助言・指導をいただきながら、連携を図っています。	行政担当者は毎回運営推進会議に参加し、事業所側の状況報告等への助言(例えば、居室が空いている時のショートステイ利用の手続き等)や意見交換をしている。行政窓口へは、利用者のプラン等の要件で担当職員が出向き、研修等の情報はメール等で受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ケアマニュアルを備え、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。しかし、玄関の施錠に関しては、利用者の危険防止の為、押しボタン式にしています。	事業所は身体拘束をしないケアを方針とし、職員間でもケアの場面を振り返る等で共有している。利用者がベッドから降りて移動する際の安全を考慮してセンサーをベッド下に設置している。利用開始時等に方針の説明はないが、センサー設置時に家族へ説明し、同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルを備え、職員は常に意識をもって日々の業務に取り組み、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見人制度について、学ぶ機会があれば積極的に参加させ、マニュアル等を備え情報提供できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に関しては、十分に時間をかけて説明し、利用者・ご家族の疑問や不安をなくし納得した上で、契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入り口に「みんなの声」という意見箱を設置しています。また、意見・要望が話しやすい雰囲気作りに努め、改善点があれば可能な限り早急に対応するようにしています。	利用者の意見は直接聞き、意思疎通が厳しい場合はコミュニケーションを工夫し表情や動作で把握している。家族の意見は面会時等に聞いている。家族の意見で台所周辺の整理整頓や清潔保持に繋げ、玄関に夜間対応カーテンを付けて事業所内のプライバシーを確保している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の業務のなかで、意見や提案は積極的に発言してもらい改善に努めています。また、必要に応じて個人面談も行っています。	管理者は毎月のミーティングで職員の意見を聞き、個人面談も設定して意見を聞く機会としている。職員の意見でミーティングを月2回開催することで全職員が参加でき、課題等の共有や解決が容易になり、ケアに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見・要望等があれば、話し合いの場を設け、可能な限り改善できるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外を問わず、勉強会や研修会があれば積極的に参加するよう努めています。また、不定期ではあるが、施設内勉強会も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会の機会があれば、参加するよう努めています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話をよく傾聴し、常にコミュニケーションをとりながら対応するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向や要望をよく傾聴し、納得していただける説明ができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のご家族の意向を話し合った上で、他事業所の情報も提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として尊重し、これまでの経験から学んだことを教えていただきながら、お互いの関係を築いていけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の健康状態や精神状態の変化等には、ご家族と共に考え、対等な立場で連携・協力して、利用者を支援するよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の写真等を居室内に飾ったり、面会もオープンにし、外出・外泊も積極的に支援するよう努めています。	関係性は家族や知人からも聞いて利用者の生活歴等を把握し、買い物に行きたいには馴染みの店に出かけている。家族と馴染みの美容室を定期的に利用したり、趣味の踊り鑑賞で外出する利用者もいる。利用者が家族等と過ごせるよう、行事に合わせて毎年外泊を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂兼リビングでの座席配置には特に気を配り、利用者同士が孤立したり口論しトラブルに発展しないように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、本人への面会やご家族との連絡は取れるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して、利用者の希望や意向を把握し、可能な限りの対応に努めています。また、困難な場合は、ご家族等に協力していただきながら支援しています。	利用者の思いや意向は個別の計画に反映させ、「歌会の機会を」の希望はレク活動の中に歌う機会を持ち、「自分でできることをして役に立ちたい」には洗濯物たたみや箱作り等の支援をしている。職員は利用者に関心を持って声を聞き、何を求めているか判断し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族からの情報を得ながら、これまで過ごされてきた経緯を把握しながら支援できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックと経過記録等を申し送りにて情報を共有し、利用者の状態や変化を把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のご家族、必要な場合は他のサービス事業所の担当者からも情報を得ている。職員間で話し合い、問題点・対策・留意点を記載している。	個別計画に利用者や家族の要望を反映し、詳細に支援内容を記載している。モニタリングは半年に1回で、担当者会議に利用者や家族も参加し、計画は定期及び随時の見直しを実施している。計画作成に職員の意見反映はあるが、個別計画を職員が確認する機会は殆どない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や変化等は個別に記録しています。また、職員が情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の要望等、状態や状況に応じて可能な限り柔軟に対応・支援するよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しての支援はまだまだである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、主治医が当法人の医師なので、定期受診はもちろん変化があればすぐに診ていただいています。また、専門診療が必要な場合は紹介状を書いていただいて速やかに対応しています。	利用者全員が法人の医療機関をかかりつけ医としている。受診は家族対応が基本で、車イスの利用者の送迎支援や、必要時には職員も同行する場合もある。家族との受診前後の情報交換は口頭で行い、必要な利用者は医師から情報提供書をもっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体面・精神面の変化があれば、速やかに報告・相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況を、ご家族と病院側と情報交換を行いながら支援しています。時々、面会に行き利用者の状態を確認しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医から、ご家族へ重度化・終末期のあり方を説明していただき、看取り介護に対する同意書も作成して、ご家族の要望に沿った支援に努めています。	重度化や終末期に向けた方針を明示し、家族には契約時に説明して同意を得ている。方針は、「状態に応じてその都度話し合いを持ち、家族の希望や判断に基づく」としている。現在対象者はおらず、職員間での話し合いや研修等も実施していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを備え、主治医・ご家族・救急への連絡体制はとっている。応急手当や初期対応の訓練は定期的には行っていないです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を等して、災害に対する対処法を身につけるよう努めています。しかし、地域との関わりができていないので、協力体制は課題である。	事業所内にはスプリンクラーや一斉通報装置等の防災設備が整備され、事業所前の通りの向かい側には消防署もある。今年度は防災に関する訓練や研修等に取り組んでいない。災害時に備えた備蓄等の準備もない。	消防署と連携し昼夜を想定した年2回以上の消防訓練の早期実施と、同建物住民の協力が得られるような関係づくりの工夫が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、上から目線ではなく、人生の先輩として敬意を払いながら、支援するよう努めています。	職員は利用者に対する言葉遣いに特に配慮している。利用者の意向を確認することに努め、本人の要望に添って、介護計画に「自分の大事な持ち物をかばんに入れて確認できるように手元に置く」等も位置付け、利用者を尊重し、本人が安心できるケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや要望があれば傾聴し、可能な限り自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者の意見を尊重しながら、本人のペースで過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの身だしなみやおしゃれができるよう、ご家族にも協力していただき支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取りやお膳拭き等、利用者のできることは手伝ってもらいながら、食事作りをしています。おやつ作りでは、ホットケーキやヒラヤーチー等を利用者と一緒に楽しく作っています。	食事の副食は配食サービスを利用し、ご飯と汁物は事業所で調理している。日中利用者は数名で、食事に関する一連の作業に利用者の関わりはみられない。職員は一緒に同じ食事を摂ることはないが、利用者へ声かけをしながら食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎日チェックし記録をとって把握するよう努めています。また、食欲不振の利用者には、経腸栄養剤を活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアは、利用者の状態や状況に応じて支援しています。口腔内のトラブルが見受けられた場合は、ご家族に連絡をとり歯科受診につなげています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、可能な限りトイレ誘導するよう支援しています。	排せつは、適時トイレ誘導する事で失敗を減らし、日々の利用者の排せつ状況は職員間の申し送りや常に共有している。排せつチェック表を活用して、オムツ使用の利用者もトイレでの排せつ支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便状態を記録し、食事や水分摂取量・運動等に配慮しています。必要であれば、主治医・看護師に相談を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週三回になってますが、利用者の体調や拒否がある場合は無理強いしない対応を行っています。	入浴は週3回を基本とし、嫌がる利用者には無理強いせず足浴したり、家族の協力を得て家族から声かけしてもらい入浴に繋げる等で対応している。同性介助が出来ない場合は本人に説明して了承を得ており、自身で出来るところは見守り支援しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠できるようデイケアの活用や当施設での活動を取り入れ、一日の生活リズムが崩れないよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は、利用者一人ひとりのお薬を職員間で必ず確認してから服薬させています。お薬の変更や臨時薬があれば連絡事項に記録し、内容や副作用について申し送りするよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族に、利用者の好み等を聞き取り本人が楽しめるよう支援しています。また、もやしのヒゲ取り・洗濯ものたたみ・チリ箱おり等をやっていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分転換を図るため、ドライブや屋上での日光浴等を行っています。また、ご家族との外出・外泊等の支援にも努めています。	利用者は事業所周辺の散歩やドライブ、認知症デイの利用等で日常的に外出し、季節に応じて初詣や花見等にも出かけて気分転換をしている。個別の外出支援で舞踊の鑑賞会に出かける利用者や、本人の嗜好品や日用品の買い物に行ったり、家族と外食する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身で所持しておきたい方には、金額を決めて所持してもらい、必要に応じて買い物等を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者からの要望があれば柔軟に対応するように努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・テレビの音量・照明等には十分配慮し、壁には季節感を出すための飾りつけをして、心地良く過ごせるような工夫をしています。	共用空間は広く、適度な明るさで換気や温度設定、音等に配慮している。テーブルやソファは利用者の関係性に配慮して配置され、利用者はそれぞれ好きな場所で過ごしている。事業所内には数多くの収納スペースを設えており整然としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテーブルやイス、テレビ等を配置して、利用者が思い思いに過ごせるよう居場所を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた身の回りの物や家具・テレビ等を持ち込んでいただいて、落ち着いて過ごせるよう工夫しています。	居室は洗面台と収納棚、タンスとベッドが備え付けられている。介護計画に「見慣れた家具等を配置する」と位置付け、本人の使い慣れた和筆筒や三面鏡、寝具他様々な物が持ち込まれている居室もある。利用者一人ひとりの特徴が表出された個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置して、可能な限り利用者の動線上に物を置かないよう、安全で自立した生活が送れる工夫をしています。		